



(上) ラグビー場全景 (下) 選手集合

# 秋工ラガ

発行者  
秋田工業高校ラグビー後援会  
事務局 (018) 862-1256



## 人工芝グラウンド完成

九月二十二日は太平山がくっきり見える秋晴れの日に秋工ラグビー場の人工芝グラウンドのオープンセレモニーが行われた。

十時から安全祈願祭が厳粛に行われた後チビッコラグビーの交流試合、午後からオーブニングセレモニーが行われ米田進県教育長が来賓を代表してあいさつ、その後盛岡工業高校との記念試合(七五対〇で秋工)、夜には佐竹敬久知事が出席され盛大に祝賀会が開催され、西秋工校長が感謝のごあいさつをされた。

公立高校の人工芝グラウンドは全国でも数少なく佐竹知事の英断に紙面を借りて改めてお礼を申し上げたい。ラグビー後援会の役割は選手が十分な練習ができる環境づくりが大きいと思う。そういう意味から人工芝グラウンドの完成は選手の育成に大きく貢献されるだろう。

## 組織を拡充したい

今一つ後援会で議論していることがある。それは後援会、OB会、父母会がこれまでバラバラにそれぞれ行動してきたが、それらを一体化して組織を拡充するための議論を行っている。そのことにより秋工ラグビー部をさらに強く支援する事が可能だと確信している。秋工ラグビー後援会の中心は現役



## 創部九十周年に花を咲かせよう

秋田工業高等学校ラグビー後援会

会長 瀬田川 栄一

時代に選手として応援を受けた生徒が卒業したら今度は現役を応援する側に廻るべきだと思おうし、それは保護者も同様だと思っている。こうしたサイクルを継続することによる後援組織は次第に強くなると思う。

後援会活動の役割の一つに資金を集め、それを強化費として部活動に役立てる活動も重要なことだが以前と比べ募金額が少なくなってきた。経済状況もあると思うが後援会組織が弱体化してきたことも一因ではないかと思う。

後援会、OB会、父母会が一体化し秋工ラグビーを更に支援、強化するために、常に変革させ続ける事で初めて少しだけ前進できると確信している。"同じ事を五年繰り返すと組織はまちがいに後退する"と言う。変えるには批判や抵抗が付きものだがそうした事を恐れず前に進めたいと思う。

このようにすばらしい練習環境が整い、素質ある選手が集まり、指導者陣も拡充されて、そして応援する組織も整備されつつある。あとは勝ち進むだけである。

秋工ラグビー部が再来年創部九十周年を迎える歴史的な節目に、これまでのすばらしい伝統を大事にしつつ、さらに飛躍させたいものである。





### ラグビーへの期待

校長 西 聡

日ごろよりラグビー後援会の皆様には多方面から温かいご支援を賜っておりまことに感謝申し上げます。

さて、本校ラグビー部は昨年度、春の全国選抜三位の実績を携えて花園に臨み、初戦と二戦目を順当に勝ち上がり、準々決勝で奈良県代表の御所実業高校と対戦しました。しかし後半に逆転され、無念のベストエイト敗退を喫し、念願の全国制覇はお預けとなりました。

今年度は、春の全国選抜では予選リーグで大阪朝鮮高校に喫した黒星により決勝トーナメント進出はなりませんでしたが、全県総体に続き東北選手権においては仙台育英高校を下し優勝することができました。また、七月に行われた大阪・常翔学園を迎えての県ラグビー協会の招待試合では、鋭い出足のタックルでプレッシャーをかけスピード感ある堂々の試合を展開し、接戦の末、24-21で勝利することができました。同校には旧大阪工大高時代を通じても初勝利であり、招待試合とはいえ花園前年度優勝校相手のこの一勝はラグビー部にとって大きな自信となりました。

勝負の世界は結果を見るまで何が起るか分からないと言われます。かのナポレオンでさえ「勝負は最後の五分で決まる」と言ったとされます。ましてや高校生スポーツでは微妙な心理状態が勝敗を左右し、最後の最後に試合を決する場面が、ラグビーのみならず多くの競技で見られるところですね。競技力が大きな要素であるのももちろんですが、それとともに精神力が鍵を握っていることは明らかです。「絶対優勝するんだ」という思いをどれだけ持っているか、どちらの

チームにその思いが強いか。気持ちで負けてはなりません。部員たちには毎日の厳しい練習でそれぞれの課題を克服し秋工ラグビーの持ち味を磨くとともに、精神面の鍛錬をしてほしいと思います。体調管理とともにこころいという場面での集中心力、内面を鍛えるのは日常の生活からです。学校での生活、家庭での生活こそその場と捉えて自らを高めてほしいものです。

今年、ラグビー部にとっての大きなトピックスはラグビー場が人工芝のグラウンドに生まれ変わったことです。県当局や瀬田川後援会長はじめ関係者の皆様には多大なご尽力をいただきました。心より感謝申し上げます。施工社である沢木組の現場監督三浦信幸さん(平成五年卒ラグビー部OB)の指揮による工事は天候にも恵まれ順調に進み、このほど完成に至りました。このような人工芝グラウンドは日本の高校の施設としては極めて希な例であると聞きます。部員たちは鮮やかな緑が全面に敷き詰められた夢のようなピッチで練習を積み重ね、ラグビー関係者のみならず県民の期待に応える活躍をしてくれるものと信じております。

終わりに、本校は来年度、学校創立百十周年を迎えます。また二十七年齢にはラグビー部が創部九十周年を迎えます。大きな節目を迎える学校、ラグビー部とも後援会の皆様には今後ともご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

### 新グラウンドで勝つ



ラグビー部長 梁瀬 章

今夏の甲子園では、ベスト8に近畿勢が一校も残らないだけでなく、ベスト4に東北勢が二校も残るといって、近年にはなかった東高西低という事態に深紅の大優勝旗の白河越えを期待した方も多かったのでは、と思っております。近年の東福岡高の躍進、大阪勢の選抜大会ベスト4独占などを思うと、高校ラグビーも東北勢ががんばらないといけない、昔のような東北勢同士の決勝戦が見てみたいという気になります。

さて、秋工ラグビー部です。今年最大の話題は、ラグビー場の整備工事です。夏休みを挟んで土のグラウンドから緑の人工芝へと生まれ変わりました。砂を取り除き、暗渠を入れ、砂利を敷き、アスファルトを敷き、そして人工芝へと変貌を遂げたのです。秋工ラグビー部のためにここまでやってくれることに感謝いたします。すばらしいグラウンドができあがりました。やる気にさせるグラウンドです。部員たちも十六回目の全国制覇に向けて勇気が湧いてきます。

次にチーム状況です。昨年のチームは東北では負け知らず、選抜でベスト4、花園でベスト8でした。皆さんに喜んでいただき、我々もとてもうれしかったです。優勝が当たり前であった時代では平凡なこの成績が、今では華やかに見えるようになってしまいました。しかし忘れてはいけないのが、二年前には花園に出場すらできなかったチームであるということです。つい六年前には三年連続花園を逃したこともあったという事です。花園出場は当然、優勝は当たり前ではないのです。逆に三連敗した六年前に秋工ラグビー部がそのまま無く

なってしまうと、良くここまで持ち直したものだと思えていたと思います。しかし、今年のバックスをほぼ引き継いでいるのが今年のチームです。今年のチームももちろん東北では負け知らずです。否が応でも期待は高まります。それも良く理解できます。

ところが同じ状況は二年前にもありました。前年は東北で負け知らずで花園でもベスト8にもう少し手が届くところまで勝ち進み、「花園での年越し」を久しぶりにし、秋工ラグビー部復活の足掛かりが見えたような気がした次の年、東日本大震災の半年後、前年のチームからバックスをほぼ引き継ぎ余裕で勝ち進むであろうと考えていた年に花園を逃してしまいました。どこか今年と似ていませんか。今年には仙北や大館での豪雨による自然災害までありました。あの年、震災のため日本中が非常事態に陥っていた中で、実は秋工ラグビー部も非常事態だったのです。あの年の信じられない幕切れを私は忘れません。悔しくて悔しくて何かに当たり散らしたかった気持ちを私は決して忘れません。状況は今年もソックリです。浮かれているわけではないのです。簡単に勝てるわけではないのです。今こそ勝利を目標に、ラグビー部員一丸となって取り組まなければいけません。ラグビー部員は、ラグビーに集中するために、日頃の生活をきちんとする必要があります。秋工ラグビー部員は何事にも一生懸命に取り組み、ひたむきな生活態度でいると信じています。その後に勝利はついてくると確信しています。秋工の「校技」であるラグビーをやっているのだというプライドを持って日々を過ごしてください。

最後となりましたが、日頃より物心両面でラグビー部を支えてくださっているラグビー後援会の皆様にご心より感謝申し上げます。更に人工芝ラグビー場の完成です。知事のご決断はもちろんの事です。瀬田川ラグビー後援会長のご尽力によるものと深く感謝しております。ありがとうございます。



新たな歴史を



ラグビー部監督  
黒澤 光弘

ラグビー後援会の皆様方には、日頃より物心両面にわたり温かいご支援を賜り、心よりお礼申し上げます。

さて、本校ラグビー場が新しく人工芝に生まれ変わりました。県当局をはじめ、ご尽力頂いた全ての方々の思いがこもった、日本一の人工芝グラウンド完成しました。この上ない喜びであり、関係各位に對しまして深く感謝申し上げます。部員達も待望のグラウンドが完成し、クッションの効いた緑のジュータンのピッチを、縦横無尽に駆け巡りラグビーを、満喫しております。選手達の評判もすこぶる良好であり、確実に競技力は向上することは間違いありません。これからも大切に使用させて頂き新たな歴史を刻んでいくよう、努力・精進したいと考えております。

昨年度は、全国大会準々決勝で御所実業高校に屈し、目標である全国制覇を成し遂げることができず、ベスト8という残念な結果となりました。御所実業高校の試合運びのうまさ、ミスをしないベアリングの強さ、ディフェンス力の差であると痛感しました。その反省を教訓に新チームは村井遙介を主将に任命し、全国制覇を目標にスタートを切りました。

日々を全国レベルでの戦いを意識させながら志を高く待ちながら、トレーニングに励んでおります。

春の全国選抜大会、中央支部総体、全県総体と試合内容は褒められたものではありませんでした。主力の怪我もありましたが、タレント集団の一番の敵である、受け身に回る精神的なゆるみがチーム内に蔓延した最悪の状況の春シーズンでした。ラグビーの原点を見つめ直し、敢闘精神旺盛なラグビーの再構築に着手し、臨んだ東北選手権では苦戦をしましたが、仙台育英を破り、二連覇することができました。この試合を契機に、チームが目覚めたように感じました。七月には、秋田県ラグビー協会の配慮により、前年度日本一の常翔学園高校を迎えての招待試合が開催され、多くのラグビーファンが見守る中、白熱した好ゲームを展開し24対21で勝利することができました。激しくぶつかり合い闘う、すばらしい音がピッチに響いていました。この勝利と音が、良い経験と自信になりました。夏は、二年ぶりに菅平に遠征し、ターゲットを近畿・西日本勢（大阪桐蔭・天理・京都成章・尾道・石見智翠館・春日丘）に絞り充実した練習試合を実施できました。

全試合とも僅差での勝利であり、確かな手応えを感じた遠征でした。また、九月下旬からの東京国体には、本校を中心とした高校全秋田チームが出場します。全国レベルを更に肌で感ずると共に、本県天皇杯得点に貢献できるよう戦ってきたと考えております。

花園の県予選は、例年厳しい壮絶な試合が展開されてきております。目指すラグビーを再確認しながら、目標である全国制覇を狙うステージ「花園」への切符を獲得したいと思っております。残された期間に磨きをかけ、万全な準備をし攻撃的に激しい闘争心溢れたラグビーを展開していく所存であります。五十七名の部員・指導陣が、心ひとつに団結し闘って参ります。

最後のなりましたが、皆様には今後とも変わらぬご支援・ご協力の程お願い申し上げます。

花園へ向けて

今年の取り組み



ヘッドコーチ  
池田 雅之

ラグビー後援会の皆様方には、日頃より物心両面にわたり温かいご支援を賜り、心よりお礼申し上げます。

昨年の花園は久々に東のAシードに出されチーム目標である全国制覇を目指して戦ってきました。しかし、準々決勝で奈良県代表の御所実業高校に敗れベスト8という結果に終わりました。

今年のチームは昨年のレギュラーが半分残り、昨年度たせなかつた全国制覇を目標にするとともに、ベスト8から勝ちきる事を意識したチーム作り、練習をしてみました。個々の基本的な技術やラグビーの理解力はある程度のレベルに到達していたので、より実戦的な内容の練習を多くし、アタックやディフェンスの面でより高いレベルを目指して取り組んできました。しかし、東北新人大会では優勝できなかったもの今までやってきた事を発揮できず、満足出来る内容ではありませんでした。その後の全国選抜大会では、予選リーグで大阪朝鮮に敗れ、決勝トーナメントに進む事ができませんでした。この敗戦により選手達も自信を無くし、ミスばかりを恐れ、目指しているアップテンポのラグビーが出来なくなっていました。そんな中、選手達を変えたのはシーズン前半戦最後の重要な公式戦である東北大会決勝でした。このままでは

負けてしまうという危機感から、FW・BK一体となった攻撃とチーム全員で身体を張ったタックルで勝利をものにしました。久々に自分たちのラグビーが出来たことで、チームが向上する良いきっかけになりました。それからは練習に向かう姿勢や勝つために必要な基礎・基本プレーの重要性を再認識し、高い意識で練習に取り組むようになりました。今年度は秋田県招待試合で昨年度花園優勝の常翔学園と試合する機会や、菅平で全国の強豪校と試合をする機会がたくさんあり、選手自身も全国のレベルを知るための良い経験になったとともに、チームとして通用しなかつた事や個人的に足りない部分も見つけることが出来ました。

これからは涼しくなり、夏に行った走り込みや激しい練習に耐えた成果が表れるようになります。春シーズンには思うようにいかずチームの雰囲気も良くなかつたときもありましたが、夏を越えて一回りも二回りも成長した部員達がいます。今年度は三年生を中心に目標を高く持ち、勝利に對して貪欲なメンバーが集まりました。それに必死に食らいつこうと努力する下級生達もいます。現在レギュラーメンバーで大きな怪我人もなく部としては順調にきています。これからは、より実戦に近い練習が多くなっていきます。試合で勝つために今まで積み上げてきた精神力と技術を実戦で発揮し、自分たちのラグビーを信じて、自信を漲らせてゲームに送り出したいと考えています。高校ラグビーは一試合に懸ける想いや気持ち、試合に大きく影響してくるといわれます。いかに苦しい場面でも、今までの練習を思い出し、一試合一試合目の前の敵を倒すことに集中させ、最初から最後まで全力で自分たちのラグビーで戦わせないと思えます。



平成二十五年 大会報告

- 1. 中央支部新人 (H24・9月・八橋)
  - 準決勝：秋田工 56―7 金足農業
  - 決勝：秋田工 53―0 中央
- 2. 全県新人 (H24・11月・八橋)
  - 準決勝：秋田工 83―7 男鹿工業
  - 決勝：秋田工 98―14 金足農業
- 3. 東北新人 (H25・2月・福島県いわき市)
  - 一回戦：秋田工 86―0 三本塚農青連
  - 準決勝：秋田工 29―0 仙台育英(宮城)
  - 決勝：秋田工 71―0 青森北青森
- 4. 全国選抜大会 (4月・埼玉県熊谷)
  - 予選リーグ：秋田工 43―14 日暮学院(東京)
  - 予選リーグ：秋田工 12―31 尚闘鯉鯉(大阪)
  - 予選リーグ：秋田工 77―0 三島(愛媛)
- 5. 中央支部総体 (5月・男鹿市)
  - 準決勝：秋田工 94―7 男鹿工業
  - 決勝：秋田工 27―7 中央
- 6. 全県総体 (6月・八橋)
  - 一回戦：秋田工 118―0 大館工業
  - 準決勝：秋田工 95―0 男鹿工業
  - 決勝：秋田工 24―13 中央
- 7. 東北大会 (6月・岩手県八幡平市)
  - 一回戦：秋田工 98―0 山形南(山形)
  - 準決勝：秋田工 17―15 黒沢尻北(宮城)
  - 決勝：秋田工 17―12 仙台育英(宮城)
- 8. 秋田県ラグビー協会招待試合 (7月・八橋)
  - 秋田工 24―21 常翔学園(大阪)

『紫白の猛き徴』

花園の地へ



主将 機械科3年 村井 遥介

新チーム結成の時から、昨年と同様に「全国制覇」を目標に掲げました。私たちは一昨年の花園出場を逃したあの時を忘れることなく、三年生になりました。

昨年の全国選抜大会で全国三位になりましたが、今年は大坂朝鮮高級学校に敗れ、予選突破はなりませんでした。エリアマネージメントが悪かったことと自分たちのミスが多かったと反省しています。やはり関西のチームは強いという感想を持ちました。目標を達成するために、関西のチームに勝たなければいけません。しかし、県大会から不調が続くチームには悪いムードがありました。東北選手権大会は接戦だったものの優勝できました。決勝の仙台育英高戦での気合の入った雰囲気は悪かったムードを打ち砕いたような気がします。後半は追われる展開になりましたが、この試合でチームは成長できたと思います。今年も秋田県ラグビーフットボール協会に常翔学園高校を招待していただきました。大阪のチームと戦える絶好のチャンスでした。相手は接点が強かったものの、勝つことができました。

強化練習会・菅平合宿と経た夏合宿は、

けが人が多数出る激しいものでした。これらの合宿を通し、チームのアタック力やディフェンス力を強化することができました。課題であったエリアマネージメントも良くなりました。

課題は多くありますが、花園予選までは期間はまだあります。もっとレベルアップできると思います。グラウンドも人工芝になりました。良い環境でラグビーができることに感謝し、より一層練習効率を高め、常に向上心を持って花園予選へ向かいます。必ず勝つという強い信念を胸に刻み、花園への切符を取ってきます。花園の地で「全国制覇」を達成し、新たな歴史を作ります。

花園へ向けて



ゲームキャプテン 機械科3年 三浦 昌悟

昨年は「花園ベスト8」という成績を残すことができませんでした。目標は「全国制覇」ですが、最後まで諦めず戦い抜いたことは今でも鮮明に覚えています。

新チームのスタートはとても厳しいものでした。4月に行われた全国選抜大会では予選リーグ敗退。「花園ベスト8」という自信は一瞬にして無くなりました。残ったのは強豪校を相手に何もできない悔しさだけでした。この大会を終えて戦術だけでなく、私生活などすべてのことを一からやり直すこと決めました。その後は、基本のプレーからひたむきに毎日練習に励みました。東北大会ではチーム一体となり、気合の入った試合をし、優勝することができま

た。菅平では、全国の強豪校と毎日試合をし、全国で通用するプレーや改善しなければならぬプレーを見つけていることができ、収穫の多い合宿でした。

もうすぐ花園予選が始まります。この仲間とラグビーができるのもあと僅かなので、一戦一戦全力で戦いたいと思います。全国制覇を成し遂げ、秋工ラグビー部の歴史を作ります。

今年も花園へ



副主将 機械科3年 加藤 広人

昨年の花園予選から早くも一年が経とうとしています。昨年の決勝戦は45対0と秋田中央を無得点に抑えて優勝し、花園へ出場することができました。しかし今年も、中央支部総体や全県総体で秋田中央に勝利したものの僅差であり、相手に対し「今年はいけるのではないか」と感じさせる、隙を見せるような試合でした。

今年のチーム目標は昨年引き続き「全国制覇」です。目標を達成するためには、昨年やそれ以上の力の差を見せつけて優勝しなければなりません。そのため今年の夏は強化練習会を新屋や男鹿、八橋で行いました。チーム練習を中心とした厳しい練習です。続いて二次合宿として菅平に行きました。菅平では全国の強豪と練習試合をしていく中で、確かな手応えをつかむことができました。夏の厳しい日々を乗り越え、私たちは大きく成長しました。「全国制覇」への道はそう遠いものではないと感じています。